

■ 趣 旨

可児市とは同じ中濃圏域に属し、関キャンパス、各務原キャンパスとも身近な市であり、別紙のように多くの若者が本学で学んでいる。このため、学生の実習や卒業後の就職、教職員の研究、社会貢献など多くの関わりを持っている。このように同じ中濃圏域にあって幅広い交流を持っていることから、さらに連携を強化し、中部学院大学の知的財産を可児市の発展のために活用するとともに、地域に貢献する若者の育成をともに目指す。

■ 可児市政への協力

[2010（平成 22）年度]

可児市総合計画審議会 会長職務代理 大井智香子 准教授

[2011（平成 23）年度]

可児市障がい者計画策定委員会 委員長 米澤 國吉 教授

可児市いじめ防止第三者機関検討委員会

コーディネーター 喜多 一憲 教授

[2012（平成 24）年度]

可児市地域福祉計画策定委員会 委員長 飯尾 良英 教授

[2013（平成 25）年度]

可児市子ども・子育て会議委員長 白幡久美子 教授

[その他]

可児市社会福祉協議会事業への協力

多文化共生についての調査研究

■ 調印までの経過

[2013（平成 25）年度]

- 3月 市総合政策課長との第1回協議（可児市役所）
飯尾地域連携推進センター長が総合政策課長を訪問、連携について協議

[2014（平成 26）年度]

- 3月 10日 富田市長と飯尾地域連携推進センター長との懇談（可児市役所）
連携協定について意見交換を行う
- 8月 4日 第2回協議（中部学院大学）
- 11月 4日 第3回協議（可児市役所）
※上記以外に事務レベルでの打ち合わせを便宜行ってきた
- 12月 17日 協定締結式（可児市役所）

■ 具体的な活動（予定）

- (1) 子育て・教育に関すること
 - ・子ども子育て支援
 - ・いじめ防止、学校教育、幼児教育の推進
- (2) 健康づくりに関すること
 - ・心の健康づくり
 - ・体の健康づくり
- (3) 福祉に関すること
 - ・地域福祉、障がい者支援の充実
 - ・良質かつ適切な福祉サービスの提供
- (4) 地域・経済の元気づくりに関すること
 - ・地域の魅力づくり
 - ・経済の活性化に関する調査研究
- (5) 大学教育の充実に関すること
 - ・学術研究における連携
 - ・学生教育における連携
- (6) その他連携が有効に機能するために必要なこと

■ 参 考（可児市の概要など）

人 口 100,936 人 世帯数 39,595 世帯

可児市出身・在住学生数 大学 48 名 短期大学部 20 名 通信教育部 18 名

(2014 年 11 月 1 日現在)

大学院、大学 4 学部 5 学科、短期大学部 2 学科 1 専攻、通信教育部、留学生別科

- ・大学院＝人間福祉学研究科修士課程、博士課程
- ・大 学＝人間福祉学部人間福祉学科、同通信教育部
子ども学部子ども学科
(2015 年 4 月より教育学部子ども教育学科に名称変更)
看護リハビリテーション学部理学療法学科、同看護学科
経営学部経営学科
- ・短期大学部＝幼児教育学科、社会福祉学科、専攻科（福祉専攻）

以上

(本件に関するお問い合わせ先)

中部学院大学総合研究センター 担当：小林・浅野

TEL:0575-24-2238 (関キャンパス) Mail : cgrd@chubu-gu.ac.jp